

# 中国シンクタンク：米国は中露の戦略的挑戦に対抗するため、 新型装備の開発を促進

阿部信行

(記者コメント)

漢和防務評論ネット版の記事が7月5日以来届いていません。問い合わせはありますが、未着の状態です。同評論に対しては、以前から中国による様々な妨害工作が行われて来ましたが、すでに紹介しました通り、中国国内の読者が増えたことから、同誌は、中国軍事基地の衛星写真は使わない、中国の軍事貿易に関する情報は、当事国の承認がなければ公表しない、などの自己規制を行うようにしました。しかし最近の中国のメディア規制（ネット上での読者の意見表明を含む）は異常で、政治的意見表明に際しては、国家転覆罪などの刑事責任を追及されることがある、との条件付きで意見表明するよう注意を喚起しています。

今日の記事は、人民網に掲載された中国の”シンクタンク”による「2016年米国軍事力評価報告」の要点を紹介した記事です。

記事は最近の米国の装備品開発の方向について述べていますが、中国の装備品の開発もそれに対抗する方向で進む、と解釈できます。



人民網—国際チャンネル 20170826 08:49

人民網北京 8月 25 日電（楊鉄虎、王暉）

中国戦略文化促進会は、25 日午前、北京において発表した「2016 年米国軍事力評価報告」において次のように指摘した。

近年来、米軍の軍事装備現代化の主要目標は、” 対テロ戦争と非伝統的な脅威への対抗” か

ら、”中国及びロシア等大国の戦略的挑戦への対抗”に転換した。すなわち”非対称”戦力への対抗と”反進入”のための新型装備と作戦戦力の建設が米軍の能力建設の主攻方向となった。

報告によると、2016年、米軍は上述領域で一定の進展を見た。

其の一、新時代の主戦装備が就役した。米国空軍及び海軍は、2つの未来の主戦装備を獲得した。8月、米空軍は、F-35A型戦闘機が”作戦能力”を完備し、部隊建設を開始したことを宣言した。これは、作戦能力を具備したF-35としては、2番目のタイプである。このタイプは、ステルス性と総合作戦能力が高い。10月、米海軍は盛大な儀式を挙行し、初めてズムワルト級ミサイル駆逐艦(DDG-1000)を投入することを宣言した。同駆逐艦は、米海軍で最も先進的な水上作戦艦艇であり、ステルス性、ミサイル対抗能力と先進的な火砲システムを具備し、自動化及びモジュール化程度が極めて高く、米海軍が”軌道砲”を試験する際の重要なプラットホームになるとともに、米海軍の重要な戦略威嚇手段となる。

其の二、無人作戦とネットワーク作戦能力の開発を促進した。米軍は、無人作戦とネットワーク戦を、”反進入”戦略の主要な手段と見ており、この種の作戦方式によって”敵の背後に深く進入”しようとしている。そのためには予め、敵が発起する”反進入”攻撃を妨害し或いは阻止する。2月、カーター国防長官とダンフォード統参議長は初めて米国の”イスラム国”に対するサイバー攻撃を承認した。今回のネットワーク作戦は”イスラム国”のネットワークと通信能力を破壊し、その指揮統制システムを妨害し遮断した。このことは、ネットワーク兵器がすでに正式に米国の対敵攻撃、威嚇手段になったことを示している。4月、米国国防高級研究計画局(DARPA)は、対潜作戦における追跡持続無人艇(ACTUV)の開発事業が最終段階に入ったことを公表した。同実験船は正式に”海上獵人号”と命名された。同局は、夏季に何度も小型無人機”蜂群”の空中作戦技術をテストし、小型無人機と有人戦闘機の協同作戦を試験した。9月、米空軍は、F-16戦闘機の無人機版QF-16が初歩的な作戦能力があり、第4世代戦闘機と第5世代有人戦闘機との協同作戦概念の検証を開始したことを公表した。10月、米国国防総省は、133個の”国家ネットワーク任務部隊”がすでに初歩的な作戦能力を具備したことを宣言した。このことは、これらのネットワーク部隊が”基本任務の執行”ができることを示している。これらの部隊は、現有人員5000名で、その中の約半分の部隊はすでに全面的作戦能力がある。また計画では、2018年末には、これらの部隊は約6200名に拡大し全面作戦能力を保有することになる。

其の三、宇宙で有利な位置を占める。米軍は、宇宙及び宇宙に近い空間を指揮、通信、偵察のための前沿陣地と見ている。米国はこれらの領域で、技術面で先頭に立とうとしており、私営企業の宇宙技術開発を積極的に支援している。ロケット動力の垂直離着陸により運搬ロケットの再利用技術は日増しに成熟している。4月、米国SPACE X会社の”ファルコン”-9号ロケットは、初めて海上プラットホームでの回収に成功した。さらに5月には、初めて高軌道任務からの回収を行った。DARPAの小型衛星群事業は、衛星を提供し発射を準備する。同システムはレイセオン社が開発した。24個のマイクロ衛星で構成され、寿命は60乃至90日である。地上部隊は、90分以内の要求に基づいて、知能携帯電話や手持ちの設備で高分解能の衛星偵察画像を入手することができる。10月、DARPAは、米空軍に”空間監視望遠鏡”を交付した。同システムは、オーストラリアに配備され、米軍の南半球

における空間監視能力の空白を埋めることによって米軍のアジア地区における空間態勢感知能力を効果的に高める。

其の四、戦略核兵器の更新。米空軍は、陸上発射ミサイルに関して、新時代の陸上発射戦略ミサイル開発事業の準備が整ったこと、すなわち実際に開発に着手する技術的、コスト的条件が整ったことを公表した。新時代の陸上発射 ICBM は 2030 年までに就役し、すでに就役 30 年の期限を過ぎた”民兵”-3 型ミサイルにとって代わる。空中発射ミサイル方面では、米空軍は次世代遠距離爆撃機を B-21 と命名し、新時代の空中発射核巡航ミサイルの開発を開始した。海上発射方面では、アイオワ級戦略核潜水艦の交代者を正式にコロンビア級と命名し、技術開発段階に入った。

以上